

<桂文珍 落語的見聞録> 19月・10月・11月		
<1>	国民が食べ物にならぬよう	2025. 9. 18.
<2>	いい仲人さん、政界にいれば	2025. 10. 16.
<3>	せっかくかつぎ上げたけど	2025. 11. 20.

神戸新聞朝刊

神戸新聞 next より

整理転記

<桂文珍 落語的見聞録> <1> 国民が食べ物にならぬよう 2025/9/18

阪神タイガースが優勝したのと石破茂首相が辞任を表明したのが同じ日で、関西人のほとんどは阪神戦をTV中継で見ていて、石破さん辞任のニュースを知らないのでは…と思いきや、最近

はホットな情報はスマホで知る方が多いらしい。
石破さんが総裁選に出たときは9人の候補者がいて、

野球のチームでも作るのか？ どうして？

党首(投手)を選ぶ、投げる球は外角か？ いや内角(内閣)。
なんてシャレを言っていたのだが、今回は5人の候補になりそう
だという。この五人囃子(ばやし)、どうなることやら…

いずれにしても、国民の方を向いて政治をやってほしい。

物価対策や政治と金の問題等々、そこを皆さんはしっかり見定めていると思う。



そんな中、今年の夏、なんばグランド花月(NGK)の高座を終わってやれやれと思っていると、面会を希望している方がいて、その方はどうも私めが慶応大学で教鞭を執っていた時の教え子さんらしいとのこと。ヘー、懐かしいなあ…と。なお、その方は今、参議院議員だという。ヘーの連続。

会っても覚えていなかった。彼はもう3期目なんだとか。またまたヘー。

いろいろと懐かしい話をして、向こうは私に先生と言っていたが、最後は私の方から「先生頑張ってね」と。
いやはや、どっちがどうなのか。

いろんな教え子がいて、以前は全日空の機内でCAさんに「先生、ご無沙汰しています」とアメを二つ頂いて、
ナメられたもんだ、なんて思ったこともあった。

それにしても政治の世界は大変なんだろう。国政だろうが市政だろうが難しい問題がいっぱい。

選挙の内幕、役所の裏側体験を基に書かれた本「市長たじたじ日記」では、著者の清水聖士(きよし)さんが、
市長職を5期務め、衆議院選に出馬、落選となり、サルは木から落ちてサルだが、議員さんは落ちればタダの人、
つぶしの利かない仕事…と赤裸々に語っておられ、フムフムとアツという間に読めた。面白い本だった。

「ライオンの祈り」という小噺(こばなし)では、

牧師さんがアフリカで布教活動をするうちにジャングルに迷い込む。そこへ突然、人食いライオン、
「ああ、今日で命が終わりか…助けたまえ」と祈ると、ライオンも十字を切って祈っている。助かった！
と思ったら、ライオンが「食事の前のいつものお祈りです」と、すさまじい。

いい政治になるよう祈りたい気分、だれだって食いものにされたくない。

(かつら・ぶんちん=落語家)

高市早苗氏 初めての女性首相誕生 男性ではやらぬ意外なパフォーマンスもあってか、
若者から高齢者までの「大人気」をわしずかみ。

トランプともうまくやったし、大型予算を組んで、物価対策。日本を読みがらせると怪気炎。
お金も活力も衰えた日本ですが、国債を大奮発しての積極財政。でも これみな借金で……
バックボーンはアベノミックスだと。つい最近まで流行った工程表は??? これからだ。

”見える化”はどうなんだ。いうがやすし。空手形にならぬよう。国民はみんなそれが怖い。
目の前にライオンならぬ大きな熊がいる。待ったなし さあ どうする。

落語の一席ではないので”どんでん”など起こらぬ。

大きな見栄も切ったし、大きな約束 新しい風が一般市民の隅々まで吹き渡るよう期待する。

日本人でノーベル賞を受ける方が2人も出るとは何と吉報。
生理学・医学賞で坂口志文さん、制御性T細胞で病が治り、
化学賞では北川進さんが金属有機構造体なるもので、
狙った物質を自在に閉じ込めるという。
これらは人類にとって夢を与えてくれる。
世界の病のような戦争や困った出来事を治したり、
閉じ込めたりする法はないものか…とふと思う。
そんな吉報の中、国内の政局は混沌としている。



昔、フォークグループ「古井戸」が歌ってヒットした「さなえちゃん」という曲があった。
「♪大学ノートの裏表紙にさなえちゃんを描いたの…でも鉛筆で描いたからいつのまにか消えたの…♪」。
自民党の総裁に高市早苗さんがなり、そのまま総理大臣になるのかと思いきや、
公明党が自公連立を白紙に…とのこと。さあ、大変。国民民主の玉木さん？ 野党連合になる？
それとも公明の斉藤さん？ やっぱ、高市さん？と
臆測がとぶが、ふと昔、自民、社会、新党さきがけの時の村山富市元総理を思い出す。
当時、阪神・淡路大震災で、大変な時だったことと重なる。
今、村山さんは101歳になられ、お元気でマユ毛を伸ばし、寿命も延ばされている。
落語「厩(うまや)火事」。
夫婦げんかをし、亭主の本心を知りたいと髪結いのお崎さん、仲人に相談すると
「昔、孔子という人が大切にしていた白馬を留守の間に火事で失ってしまう。
帰宅した孔子は焼死した白馬のことは少しもふれず、家来の安否を尋ねただけ。
一方、ある屋敷の旦那は瀬戸物にこっていて奥方が大切な鉢を持ったまま階段からすべり落ちた時、
鉢の方ばかり気にして奥方の体のことは少しもきかなかった。
人間の本心はこういうところわかるもの、
おまえの亭主も瀬戸物が好きで集めているから、それを壊し、もしもおまえの体を心配してくれれば良い、
瀬戸物ばかり気にしているようなら別れてしまえ」と言う。

お崎、家に帰り、瀬戸物を壊す。亭主「どこもけがは無かったか？」の一言。
「ああ、やっぱりあんたはいい人、私の体が大事かい？」
「当たり前よ。おまえがけがすると明日から遊んで酒を飲めねえ」と、よくできた噺(はなし)。

自公は元に戻らないのか？ 政治資金改革が大きなハードル。
政治の空白は困るのだ。いい仲人さん、いないのかなあ…。
(かつら・ぶんちん＝落語家)

よく知られた落語「厩(うまや)火事」の噺。
返事は思い通りで、万々歳。でも、思いは別のところにある。よくあることだと笑い飛ばすもよし。
「ええ 悪いは別や。結果がすべてや」という話もよく聞かし、「それは結果論やないか」とも。
受け手はアプローチもよく知ってほしいと思っていることも…。
政治の世界はどうだろうか…。「大極は誤ってはならぬ」との言葉もある。でも 見誤らぬよう願いたい
鉄鋼には「鉄鋼は剛柔にして、時に応じて 其の態を変える」との言葉がある。頭に叩き込んだ言葉です。
さあ、政権はどんなかじ取りをしてゆくのだろうか…。

週に一度は実家の丹波篠山に戻ることにしているのだが、その節、必ずみなさん「クマに気をつけて」とおっしゃる。以前は「クルマに気をつけて」だったのに。今年ほどクマ出没のニュースを見たことがない。秋田ではあの「イオン」にクマが入ったとか。冬眠用のアウトドアグッズでも欲しかったのか、ワオンのポイントが欲しかったのか…。人との共存はなかなか難しい。



散歩も以前は暗いうちから歩き始めたが、最近は派手めの服で昼間に歩かないとクマに間違えられて、猟友会のオジサンに撃たれないとも限らない。何しろ猟友会の近所のオジサンも年だからなあ。

同じクマでもパンダは人気があって保護されている。みなに恐れられているクマはパンダをどう思っているのだろうか？白浜のパンダが中国に帰ってしまい、パンダロスの人もいるとか。この中国、もうパンダを貸してくれないだろう。何しろ高市早苗首相の台湾有事に関する答弁を機に日中の対立。中国の教育省は日本への留学計画を慎重に検討するようにと、渡航も当面控えるようにと注意喚起したとか。日本は中国にビジネス、文化、あらゆる面で影響を受け、互いの立場を尊重し合って今日がある。ここは外務省さんに頑張ってもらいたい。落語「二十四孝」。

少々暴れん坊で困った男に、家主さんが昔、中国にいた24人の親孝行者の話をする。

例えば、王褒(おうほう)という人はお母さんが生前雷が嫌いだったのでお墓参りで雷が鳴った時、自分の着ている服を脱いで墓石にかけたとか、孟宗はお母さんにタケノコを食べてもらおうと、竹ヤブに行ったが、雪が積もっていてタケノコがない。ああ、親孝行ができないと嘆き、涙をハラハラと流すと、天に通じたのか、地面からタケノコがニョキニョキと出てきたとか。また呉猛(ごもう)は、家が貧しく夏場蚊がいっぱい出ても蚊帳を買えないので、自分の体に酒を塗って蚊を集め、お母さんにゆっくり休んでもらおうとしたが、親孝行の徳で呉猛に蚊は来なかったとか。

暴れん坊の男は

「そんな、体に酒を塗ったりせずに2階の壁に酒を吹きつけて蚊が2階へ行った時、はしごをはずす」「アホ、蚊は飛んで降りるわ」とギャグ満載の噺(はなし)。

せっかく女性初の総理が生まれたのだ。

支持率も高市、慎重にご発言を。かつぎ上げた方々、ハシゴを外さないように…と願う。

(かつら・ぶんちん＝落語家)

落語「二十四孝」「二十四孝」の言葉は知っているものの二十四の孝行の中味はよく知らず。

この話が一番有名な話なのだろう。9・10・11月 3ヶ月 続けて 文珍さんも高市首相がらみ。

この秋 日本の政治は混沌 先行きがみんな気になる。そして、熊出没 対策先進県と言われる兵庫でも。どうか 情報採取にご留意ください。熊も悪い熊と良い熊がいると。